

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090100130		
法人名	特定非営利活動法人 三和会		
事業所名	グループホームかわらはま		
所在地	前橋市河原浜町21-4		
自己評価作成日	8月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和3年10月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

赤城山を背にし、一年を通して日当たりの良い開放感ある建物です。長年勤めているスタッフが多く、利用者様と家族の関係性を大切にしながら要望を聞き、今まで培ってきた経験を発揮できるケアプラン作成し、生き甲斐と自信を持ち、心地よいアットホームを目指しています。また中庭の畑で、野菜やお花を育て、眺めたり収穫したり楽しみながら和気あいあい皆で生活をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居時に、家族にアンケートを実施して、利用者の生活歴や意向を詳細に聞き取って、入居後もその人らしい自立した生活ができるように支援している。運営推進会議開催日程は、第一に家族が参加可能な日程で調整し、家族からの意見を大切にされた対応がなされている。人権を尊重する介護については、法人としての「拘束をしない」考えのもと、毎月、身体拘束廃止推進委員会を開催し、法人のマニュアルを学んだり、支援方法を検討したり、家族には職員の介護対応は万全でないこと、リスク等も時として伴うことも説明して、納得を得る努力を行っている。終末期ケアは、家族や本人の思いに寄り添い、医師の指導のもとお花見に外出した事例もあって、医師から家族への十分な説明と、関係者が連携を密にして、安心して最期の時を迎えられるよう努めている。災害避難訓練を毎月開催し、居室入口にある表札の裏に名前・住所・電話番号を記載したものを名札にして避難することで、近隣者でも確認できるように工夫されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、介護日誌、職員トイレに理念を掲示し、職員が理念を意識して共有できるようにしています。また地域住民として自由にサービスを利用できるように心がけ、地域に溶け込める支援している。	理念は、法人が運営するグループホームにおいて、共通して法人の理念を掲げている。理念を事業所の各所に掲げて、職員が日常的に確認できるようにしている。日常の介護の中で、各自が理念の概念を理解してケアに取り組んでいる。	理念が目指すところや、理念の言葉の意味について、個々の職員が理解し、共有できる機会づくりを、検討することを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々が定期的に慰問に来られ交流を行っていたが、コロナウイルス感染症対策で現在は自粛している。回覧板を回す際、利用者様と散歩しながら届け、距離をとりながら交流している。	コロナ禍前は、毎月、地域の方の歌や踊りの訪問を受けたり、利用者は町の「いきいきカフェ」に参加したり、文化祭に作品を提出したりなど、地域の一員として交流していた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	群馬県地域密着型連絡協議会による認知症相談窓口施設として登録し、地域の方々が認知症について相談が場合、支援方法や治療についてなど状況に応じたアドバイス等を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議のテーマについて利用者・利用者家族が発言しやすい環境を整え意見交換している。戴いた意見や苦情等は職員全員で検討しサービス質向上に繋げている。	コロナ禍で会議は中止となっているが、以前は開催日を家族の都合を優先し、テーマを1ヶ月前に伝え、意見交換しやすいようにしていた。区長等から困っている住民の情報を聞き話合ったり、家族から「まな板」をきれいにする方法を教えていただいたりなど、幅広い意見が交換されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナウイルス感染予防で運営推進会議は中止していますが、分からない事があった時は市に連絡し、その都度聞きながら行っています。また空室の際は東部包括支援センターと連絡を密にし、近隣住民の方が利用できるように努力している	市へ不明なことを連絡すると、丁寧な対応がなされるとともに、介護高齢課から情報が送付されている。東部包括支援センターとも連絡を密にし、幅広い支援に繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として拘束をしないという考え方を職員全員で理解している。また身体拘束廃止推進委員会及び研修会を施設内研修として定期的に開催し、マニュアルに沿って勉強会をしている。また現状で危険が伴う事例については全職員で良く話し合い支援方法を工夫している。	身体拘束廃止推進委員会を毎月開催し、職員が議論の内容を共有することで、一層の拘束しないケアの実現に向けて取り組んでいる。転倒する危険が伴う事例については、転倒リスク軽減の工夫や、医師の助言等、人権尊重を第一に、全職員で討議して見守る方法を考え実践し、家族にも伝えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	権利擁護推進委員(身体拘束廃止推進委員)養成研修等の研修に参加したり、管理者を中心に朝のミーティングにて高齢者虐待の話し合いをして知識を深め職員一人ひとりが防止に努め、オンライン研修等も参加していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、権利擁護について理解を深められるようにしている。また制度を使う場合は関係者と良く話し合いながら活用できるようにする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書・重要事項説明書等の説明を十分に行い、質問をしやすい環境づくりを心掛けている。また、外泊や入院等した際は重ねて料金について説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で、利用者様一人一人に合わせた間く姿勢を大切に、意見や要望を反映している。また運営推進会議等にて、利用者様及び御家族に出席して頂き、外部者との交流をする中で色々発言できる配慮して運営に反映している。	コロナ禍で家族の面会は自粛していただいているので、意見や要望を聞く機会は少なかった。家族に電話をすると「面会」についての質問が多く、窓越し面会やオンライン面会を行ったが、利用者にとっては聞こえにくかったり、画面に映る光景に戸惑う光景なども見られた。	家族も含めた体制で取り組めるよう、家族へ運営内容等について具体的に掲示して、じっくりと意見や要望を聴取する方法を検討することを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングやサービス担当者会議の際、職員から出た意見や提案を管理者が中心となって検討し、質問に対して分かりやすく説明している。	朝のミーティングや月1回のケース会議の際、人員体制や利用者の怪我の心配等、多くの意見が出され、管理者との意見交換が行われている。管理者は月1回行われる法人の管理者会議の内容を職員に報告し、他の事業所の状況も知らせている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	なるべく職員の希望に沿い、勤務形態や働きやすい環境を整えるように努力している。また勤務変更等の希望があった際は柔軟に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の能力や経験を把握し一人ひとりに合った研修になるべく参加できる環境を作り上げている。今年度は実践者研修及び管理者研修受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会の研修や勉強会に参加し、他施設職員との交流をしながらサービスの質向上に繋げている。また法人研修部の活動を通して個々レベルアップの取り組みもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に事前訪問をさせて頂き、利用者様の意向を十分確認している。また御家族に協力して頂き入所時アンケートにより今までの生活環境や生活上の注意点を把握し、より良いサービスの提供ができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に事前訪問をさせていただき御家族の意向を十分聞き、より良いサービスの提供ができるように配慮している。また初期段階では生活の様子を適度に報告し不安解決になるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人・御家族の意向を十分に理解した上で、色々なサービスの方法を考え提供できるようにしている。また認知症状や心身の状態を観察し、必要に応じて早期に医療機関に受診等も対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人と職員と一緒に生活しているという意識を持ち、支えあいながら人生を歩む関係を築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族と職員が協力し、共に生きる家族となれるような関係を築けるように努めている。また家族がどのように関わってきたのかを十分に理解することにも努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染症予防対策として、面会は原則禁止しているが、キーパーソン面会希望の連絡がある際は窓越しにて短時間でお願いしている。また、オンラインにて打ち合わせして面会も行っている。	入居時に家族へ詳細なアンケートを実施して、今までの生活環境や、大切にしてきた物や場所・趣味や個性・家族との関わりなどを把握し、入居してからもそれらが継続できるよう、共に生きる家族となれるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や趣味・個性などを十分に把握し、利用者さん同士の関係が円滑にいくように職員が間に入り良い関係が築けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までの御本人・御家族の関係をいつまでも継続できるように、何かあれば相談しに来ていただけるような言葉がけや環境を提供している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御利用者の生活面で聞かれる希望や意向の声を職員全員が共有し、ケアプランに反映させている。また困難な場合は家族協力のもと作成したアセスメントを活用して本人本位に配慮している。	日頃より利用者の思いや意向を把握し、生活を楽しくしてもらうために、着る服や好きな飲み物などを選んでもらっている。利用者の担当職員を決めて、担当職員がアセスメントをして、思いや意向がより介護計画に反映できるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族同意のもと入所前に利用していたサービス事業所からの情報を戴いたり、今までの生活環境や生活歴などを御本人や御家族から詳しく聞けるアンケート協力をを行い、その人をできるだけ理解できるように努力している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状況を朝のミーティングで報告しあい情報共有に努めている。また心身状態変化については必要に応じて看護師又は主治医に相談している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人や御家族の希望を入れた介護計画を6か月ごとに作成している。また毎月モニタリングを行い、状態変化に応じて計画を修正している	利用者毎のファイルは、日々のケース記録・ケアプラン・アセスメント表・基本情報・私の思い・生活の様子が綴じられている。日々の記録を記載する際、ケアプランをいつでも見ることができ、モニタリングは毎月行い、ケアプランは6ヶ月毎に作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア方法の成功例や失敗例を連絡ノート・ケース記録に記載し、情報共有できるようにしている。また、それをミーティングにて話し合い、介護計画に繁栄している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者さんのその日の体調や気分に合わせて外出したり、イベントをしたりして柔軟に対応できるような環境を整えている。また外出行事に家族協力が得られる時は一緒に参加して戴き楽しめる支援をしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	御本人の得意不得意を把握し、残存機能維持向上生活ができるように地域資源も含め支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前に希望医療機関と連携が取れる様に話し合い、入所後の受診は施設職員が付き添い行っている。また家族協力が得られる場合は付き添いの協力もお願いしている。	利用者全員が訪問診察を受けており、在宅酸素の方は月2回で、他の方は1回である。検査等があれば、職員が受診に対応している。薬局と連携し、薬を届けていただいている。歯科は、必要時往診を依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は看護師に身体機能の変化を随時連絡して適切な処置方法が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医と連携し適切な入院治療を受けられる支援を行い、退院時は医療機関や御家族との情報交換を密にし、早期退院できるような環境づくりを心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方を入所時に説明し、理解していただき同意書をいただいている。また家族、医療機関、職員が連絡を密にして安心して終末期のケアが受けられるようにしている。	入居時に「重度化した場合の対応に係る指針」について説明し、同意していただいている。看取り段階になると医師が家族に説明し、訪問看護師・家族・職員など関係者が連絡を密にして、安心してケアが受けられるよう取り組んでいる。今まで10名の看取りの経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	発生時には、管理者に連絡し、指示を仰ぐようにしている。また管理者は、主治医や看護師に相談・指示を仰ぐ体制を作っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を毎月実施し、全職員が訓練できるように行っている。地域の方達には火災が発生した場合、協力を御願している。	全職員が避難できる方法を身につけられるように、毎月訓練を実施している。避難訓練・消火器訓練・通報訓練など、日中と夜間想定で交互に行っている。各居室入口の表札兼名札(裏側には名前・住所・電話番号を記載)を首にかけることで、地域の方が見守る場合にもわかりやすいよう、工夫がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格尊重は念頭に置き、一人ひとりに合った声かけをし、居場所を失わない様な環境作りをしている。	利用者は人生の先輩であることを、職員一人ひとりが理解するようにしている。言葉かけは、特に失禁時や入浴時は丁寧に、本人が理解できる言葉で、自尊心に配慮した声かけを励行することを、職員で共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な生活場面で自己決定できるように職員が選択肢を提供している。例えばサラダに使用するドレッシングを何種類かの中から選んだり、醤油かソースを選んだり、その時の気分で決められるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースではなくあくまでも利用者さんのペースで希望に合わせた支援ができるようにしている。また散歩等の希望があった際は柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なるべく御本人の希望に沿って清潔な身だしなみができるように職員が支援している。特に女性入居者様がお化粧されている場合は残量を見ながらお渡ししている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外注献立メニューを利用しているが、時々季節行事メニューや、御利用者の希望メニューを入れて提供している。おやつレクリエーションでは全員で楽しめる様に作業の工夫をしている。	業者からメニューと食材を調達して、職員が調理している。季節行事や誕生日には、利用者からの希望を実現するために、購入や調理に取り組んでいる。月に2～3回はおやつレクリエーションを実施すると共に、日頃から利用者に皮むきや食器洗い、テーブル拭き等のできることをしていただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分量をチェック表にて把握し、健康管理を行っている。むせ込み症状がある方には、トロミを活用して水分摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア訪問指導のもと、個々の能力に合わせた口腔ケアを毎食後行えるように職員が支援している。口腔内状態不良の際は訪問歯科依頼して連携している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を基に、個々の排泄リズムを把握してトイレ誘導自力排泄支援している。二人介助が必要なかたでもタイミングを逃さないように配慮している。	排泄回数は、バイタルチェック表に記入している。自分でトイレに行く方も多いが、誘導が必要な方は定期的に誘導したり、場合によっては表情やしぐさで誘導したりして、排泄の失敗がないように支援している。現在、おむつ使用の方はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を含む食材や乳製品等を食事で提供して予防している。また朝のミーティング時、排泄状況確認し、主治医指示のもと個々に合わせた下剤等の排泄支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	常時入浴できる様にしている。拒否された場合は声かけの工夫をしたり、次の日に変更して柔軟に対応しています。また季節感を楽しめるように、ゆず湯や菖蒲湯なども行っている。	希望があればいつでも入浴でき、入浴日は、男性と女性で別々に設定している。入浴を拒否する人には、「新しい服がありますよ」等入浴につながるよう誘っている。在宅酸素の方は、週に1回は看護師が介助し入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり在宅時でのパターンを把握し、自由に生活していただけるよう支援している。また希望や心身状態によっても対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服薬の情報は入所前に職員全員で確認し、主治医と連携し症状に合わせた支援をしている。また副作用にも留意し、残存機能低下等があった場合は継続するか主治医や御家族と相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の趣味や好みを把握し、張り合いのある生活ができるように環境的支援も含めサービス提供している。また入所時のアンケート情報を参考に力が発揮できる様に支援する。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節が感じられる様に、少人数ドライブを定期的に行っている。気分転換の外気浴は天候や体調見ながら支援している。	コロナ禍で皆でドライブに行けないので、2～3人でドライブしたり、中庭で花を見たり、草むしりや、畑に新しい土を入れて、野菜の収穫をしたり、外気にふれるなか、季節が感じられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的には施設が行っているが、本人の希望でお財布を保管されている方もいる。また日用品等購入希望があった際は無理のない程度に一緒に買い物に出掛け購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	気軽に外部の方と連絡が取れる様に手紙や電話を自由にやり取りできるよう支援している。またゆっくり電話の会話ができる様に環境配慮もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開放的なホールでは自由にリラックスできるスペースを作り、日差しの調整や室温管理をしている。また季節の花々や手作りの折り紙飾り、各行事の写真などを掲示して思い出を楽しめる空間を提供している。	広々としたホールは、ソファで話したりテレビを見たり、リラックスできるスペースや、食事をしたり作業したりするテーブルが3ヶ所に、用意されている。壁にはコスモスの花の上にトンボが飛んでいる折り紙飾りや敬老会で利用者一人ひとりをたたえた賞状が貼られ、くつろげる空間作りとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでの利用者さん同士のふれあいの場所や一人で日向ぼっこができるようにソファを配置したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で馴染みの家具寝具を持ち込んで頂き、なるべく環境が変わらない様に配慮しています。居室間取りも家庭に近いベット位置にして、落ち着ける飾りや写真など掲示したり、希望に沿って支援しています。	居室には、馴染みの家具等が持ち込まれ、家族の写真も飾られている。転倒のリスクがある利用者の部屋はつまづきやすいものは置かず、ベットではなく、畳に布団を敷いて対応して、センサーを置いて立ち上がった時にすぐに駆け付けるようにするなど、利用者に合わせて安心・安全な取り組みがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力を把握し、できない部分を職員が支援させていただき、安全安心して生活できる環境づくりを心掛けている。		